

中国春季リーグ入替戦、中四国大会、国スポ広島県予選結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

5/23～25 に中四国大会(岡山県)、5/31 に中国春季リーグ入替戦(広島大学北体育館)、6/7 に国スポ広島県予選(猫田記念体育館)が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

中四国大会

(男子)

予選 1 回戦 vs 島根大学

○2-0 (25-18、25-19)

決勝 T1 回戦 vs 徳島大学

●1-2 (25-20、14-25、23-25)

(女子)

予選 1 回戦 vs 四国大学

●0-2 (12-25、22-25)

予選 2 回戦 vs 広島修道大学

○2-0 (25-14、25-17)

決勝 T1 回戦 vs 岡山大学

○2-0 (25-13、26-24)

決勝 T2 回戦 vs 中国学園大学

●0-3 (7-25、15-25、8-25)

中国春季リーグ入替戦 (男子)

vs 岡山大学 (2 部 2 位)

○3-0 (25-14、25-13、25-19)

国スポ広島県予選 (女子)

1 回戦 vs 広島文化学園大学

●0-2 (10-25、20-25)

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp>

男子は、少しずつチームの形が出来つつあるだけに、中四国大会のトーナメント戦で、負けたら終わりの戦い方をしなかったのは残念でした。監督不在で自分たちだけ、しかも若いチームなので仕方がないことではありますが、4年生の4人が、ゲームキャプテン、リベロ、ベンチ（キャプテン）、アップゾーンという、それぞれキーとなるポジションにいれば、ゲームをコントロールして試合を動かせるようにならないといけません。途中、リベロの出口（4年・長崎・五島高校）が気付いてタイムアウトを提案しましたが、コート内の選手が気付くタイミングは、取るべきタイミングより2点分遅いことが多く、負けたら終わりの試合では、ベンチで感じるタイミングよりも1点分早く取らないといけません。今回は出口の提案がうまく伝わらずに、さらにもう1点取られてからようやくタイムアウトを取りました。フルセットで敗れた春リーグの広島経済大学戦もそうでしたが、適切な間の取り方が出来ていれば、試合の結果は変わっていました。目の前のことだけに集中してしまったり、無理な状況でもまだいけると過信を持ってしまうのも若さゆえで仕方がありませんが、全員がそうなってしまえば、「ちょっと待とう」と誰も言えないのであれば、はっきり言ってチームで戦っている意味がありません。

俯瞰的に見られる人、冷静な判断ができる人、その判断をみんなに伝える人、チームにはさまざまなポジションで支える役割があるものです。今は自分の役割を見つけ切れていない人、見つけていても力を出し切れていない人がほとんどですが、それぞれのポジションで全員が力を発揮できるようになれば、このチームは間違いなく驚くほど変わります。それだけの可能性を持っているチームですが、ただ、これはすぐに出来ることではありません。地道な努力の積み重ねによって生まれる信頼がなければ、冷静な判断をしても、声を伝えても、それがチーム全体に広がることはありません。試合期がひと段落して、練習の重みがより増してくるのが今の時期ですので、自分とチームの引き出しを増やすことができるように、努力を継続して欲しいと思います。

負けたら2部降格となる入替戦では、中四の鬱憤を晴らすかのような躍動ぶりで、数十年ぶりの入替戦出場というプレッシャーをはねのけたのは見事でした。リーグ戦では順位を落としましたが、悔しさを糧にして上を目指している男子の非常に良いところとして、自分たちで選択肢の限界を作らないことがあげられます。特に、セッターの新谷（3年・広島城北高校）とセンターの川村（2年・東京・日本大学第三高校）は、ラリー中でも発想力と創造力をかき立てることに余念がないと言うか、常に相手を出し抜く機会を伺っているところを頼もしく感じます。試合を見ている側からすると、「え、ここでその形!？」と驚かされ

る場面が何度もあり、スパイクであればそのボールに対して、1年生の田代（愛知・名東高校）であってもきちんと入れていることが素晴らしいところです。今はその挑戦が必ずしも得点につながっているわけではありませんが、長期的に見ると結果につながることは明らかです。こうした「やってみよう」と言うのは、土台が出来ていないとただ遊んでいるだけになります。今のチームは挑戦がきちんと力になっており、土台が出来ている何よりの証拠ですので、上半期で階段を上られるだけ上がって欲しいと思います。

女子は、力を出し切れていない点では男子と同じですが、そもそもの役割分担が不明確なので、力がある選手でも力を発揮できない状況が続いています。誰に何をどこまで求めているのかが分からないので、誰かが頑張ったとしても、それは頑張りではなく「くい」になってしまい、結果的にくい被打たれて頑張り損になっています。特に、3年生と2年生の役割が不明確すぎるのが前に進めない大きな要因ですが、それは役割を与える側の話と言うよりも、与えられることをただ待っているだけの3年生、2年生が考えを改めないといけません。4学年が集う大学では、3年生と2年生がチームの中核で、この2学年がいかにかに自主的に取り組めるかどうかでチームは大きく変わります。隣の男子を見れば分かると思いますが、チームを牽引する原動力となるのがこの2学年です。今はほとんどエネルギーを感じませんが、チームを前に進めるための行動と言動は、本来はもうしなければなりません。1年生はプレーでもアップゾーンの声でもサポートの面でも、それぞれが一生懸命自分の力をチームに注いでくれています。中四では、森原（1年・広島・安田女子高校）と太田（1年・三重・鈴鹿中等教育学校）の、1年生二人でのコンビ攻撃もありました。西日本インカレで岩永（4年・長崎西高校）と長谷川（4年・静岡・浜松北高校）が引退した後でないとできないのか、それとも4年生がいる今の時期から目つきを変えることができるのか、その結果がこれからの2年半を大きく左右することは間違いありません。

今月末からは、西日本インカレが兵庫県（女子）、広島県（男子）で開催されます。グループ予選の組み合わせは以下のとおりです。

6月29日（月）ヴィクトリーナ・ウインク体育館サブコート第3試合（12時頃開始予定）

予選1回戦 vs 芦屋大学

（敗れた場合：メインコート第6試合）

予選2回戦 vs 大阪体育大学と中部学院大学の試合の敗者

（ヴィクトリーナ・ウインク体育館アクセス）

<https://www.victorina-vc.jp/gymnasium/>

7月2日（木）広島県立総合体育館サブアリーナeコート第2試合（11時頃開始予定）

予選1回戦 vs 大阪学院大学

(敗れた場合：サブアリーナ e コート第5 試合)
予選 2 回戦 vs 関西学院大学と西日本工業大学の試合の敗者
(広島県立総合体育館アクセス)

<https://h-jigyoudan.or.jp/sports-center/center-overview/>

引き続きよろしくお願いたします。